

町内を運行する公共交通機関

バス
道南バス ☎ 22-1558
ニセコバス ☎ 44-2001

まちなか循環バスじゃがりん号
町総合政策課 ☎ 56-8001

鉄道
JR 倶知安駅 ☎ 22-1310

タクシー
ニセコ国際交通 ☎ 22-1171
スプリントタクシー ☎ 55-5400

町内では、路線バスのほかじゃがりん号や鉄道、タクシーなどの公共交通機関が運行をしています。長距離の移動や、町内全域を路線バスだけでカバーすることは難しく、時間や経路にとらわれず柔軟な運行のできるタクシーや一度に多くの人を運ぶことのできる鉄道、市街地を循環するじゃがりん号など、それぞれの特性を活かして面的に利用することで、公共交通の利便性はさらに向上します。

私たちの暮らしを将来にわたって支える公共交通機関を未来に繋げるため、買い物やお出かけの際などに、公共交通機関の利用を意識してみたいかがでしょうか。

乗り継ぎ利用でさらに便利に

10月1日から じゃがりん号のルート・ダイヤが変わります



今回の改正は、昨年実証運行した快速じゃがりん号の結果やこれまでの利用状況などを踏まえ、両ルートに快速便を組み込んだ他、各ルート相互乗継の停留所を追加するなどし、住民の生活に便利なルート・ダイヤとなっています。

主な改正点

- 乗り継ぎ停留所として従来の **JR 倶知安駅** のほか**厚生病院**と**マックスバリュ**を追加
- 停留所**ホームック**を新たに設置
- 停留所**ひまわり団地**と**ノースパークタウン**は南北ルートから**東西ルートに変更**

※詳しくは本号折込チラシをご覧ください

路線バスとじゃがりん号を利用した お出かけプラン

お出かけプラン①（保健福祉会館で健診編）

字八幡に住む子育て中のAさん。13時から保健福祉会館で健診を受けます。

10：08	西一号	道南バス （喜茂別発倶知安駅前行）に乗車
	↓ 14分	
10：22	倶知安駅	到着 買い物や食事（約1時間半）
12：02	倶知安駅	じゃがりん号 （南北ルート5便）に乗車
	↓ 23分	
12：25	保健福祉会館	到着 健診（約2時間）
15：49	役場通	道南バス （倶知安駅前発喜茂別行）に乗車
	↓ 6分	
15：55	西一号	到着

道南バス 440 円 + じゃがりん号 100 円 = 540 円（往復）
※西一 号→倶知安駅 240 円
役 場 通→西一 号 200 円

お出かけプラン②（美術館で演奏会編）

字高砂に住むBさん。小川原脩記念美術館で14時から行われる演奏会を聴きに行きます。

11：47	自衛隊正門前	ニセコバス （ニセコ駅前発小樽駅前行）に乗車
	↓ 8分	
11：55	倶知安駅	到着 買い物や食事（約1時間）
13：16	倶知安駅	じゃがりん号 （東西ルート6便）に乗車
	↓ 28分	
13：44	小川原脩記念美術館	到着 演奏会（約2時間）
16：25	小川原脩記念美術館	じゃがりん号 （東西ルート8便）に乗車
	↓ 26分	
16：51	倶知安駅	到着
16：58	倶知安駅	ニセコバス （小樽駅前発ニセコ駅前行）に乗車
	↓ 7分	
17：05	自衛隊正門前	到着

ニセコバス 400 円 + じゃがりん号 200 円 = 600 円（往復）

地域公共交通を考える

バスに乗って出かけよう



近頃、テレビや新聞などで利用者の少ない鉄道の廃線などのニュースを目にします。公共交通に関する問題は、私たちの町でも例外ではありません。私たちの日々の暮らしを支える公共交通機関の重要性和、未来に持続させるため私たちに何ができるかを改めて考えてみましょう。

倶知安町内のバス路線

町内には2つのバス事業者が8つのバス路線を運行しています。また町では、まちなか循環バス「じゃがりん号」やスクールバスを活用した「スクールバス混乗」を一部地域で運行しており、それぞれが暮らしの足として町民の生活を支えています。

町内を運行するバス路線

大和線	倶知安一町内大和・北部	道南バス
胆振線	倶知安一伊達・壮瞥	道南バス
京極線	倶知安一京極・喜茂別	道南バス
留寿都 倶知安線	倶知安一真狩一留寿都	道南バス
小樽線	ニセコ一倶知安一小樽	ニセコバス
東山線	倶知安一町内山田・樺山	道南バス
倶知安線	倶知安一町内山田・樺山一ニセコ	ニセコバス
小沢線	倶知安一岩内・共和	ニセコバス
※観光協会やスキー場事業者では「くっちゃんナイト号」や「ニセコユナイテッドシャトル」を期間限定で運行		

バス交通を取り巻く現状

交通網が整備された大都市を除き、全国的に自家用車の利用は増えています。それによりバスなどの公共交通機関

の利用者は減っており、このことによる運賃収入の減少や、国や自治体のバス路線の赤字額に対する補助金の負担増、また運送業界全体の運転手不足などがバス事業者に影響を与えており、バス交通を取り巻く環境は、依然厳しい状況にあります。

バス路線の果たす役割

バスを利用しない理由には「利用したい時間に運行していない」や「停留所と目的地が離れている」などが聞かれますが、そのことで利用者が減少すると、結果として路線の減便や廃止に繋がるといふ悪循環に陥ります。このような状態が続くと、現在自家用車を利用している人たちが、将来、運転ができなくなったときには、公共交通の状況は現在よりも更に不便になっていくことが予想されます。

公共交通機関は車を運転できない人、自家用車を持っていない人でも利用できる貴重な交通手段です。今後もし高齢化は更に進むと予測されている中、移動手段の確保は重要性を増すことから、公共交通機関は、私たちがいつま

でもこの町で快適に生活するうえで、なくてはならない存在です。

生活の足を未来に残すために

町は、バス事業者ら関係機関と連携・協力して、路線維持や利用促進などといった生産性向上に向けた取り組みのほか、公共交通機関の充実、利用しやすい公共交通の運行に関する情報提供、域内のよりよい交通体系への研究を進めることとしており、今後地域の実情に合った公共交通手段の提案や交通ネットワークの構築を進めていきます。しかし、そのような取り組みだけではすべての問題を解決することは難しく、私たちの暮らしを支える生活の足を守るためには、一人でも多くの人々が、一度でも多くバスを利用することが大切です。